

平成29年11月28日
西部農林振興センター 県央事務所 農業普及部

標 題	乗用白ねぎ土寄せ管理機の実演会開催
-----	-------------------

(ダイジェスト)

生産が減少する白ねぎの産地再生に向けて、高齢化による労力不足に対応した作業受託の仕組みづくりをJAとともに検討中。この一環として、土寄せ作業にかかる作業者の労力負担を軽減するための乗用白ねぎ土寄せ管理機の導入に向けた実演会を開催。白ねぎ部会会員、集落営農法人等関係機関から約30名が集まり作業性を確認した。

今冬に向けては、集落営農法人による白ねぎの調製作業の受託を試行することとしている。

JAしまね島根おおち地区本部管内は県内一の白ネギ産地であるが、生産者の7割が65歳以上と高齢化が進んでいるため、栽培面積と生産者数は年々減少しています。

そこで、本年度より生産者、JA、県央農業普及部が一体となり白ねぎ産地再生プロジェクトを立ち上げ、課題・対策を整理し取り組みを進めているところです。

その中で、重労働であるため生産維持や規模拡大の阻害要因となっている土寄せ作業の受委託体制の仕組みづくりを検討しています。

この一環として、作業者の労働負担軽減に向け、乗用土寄せ管理機の実演を兼ねた検討会を11月17日に美郷町現地ほ場において開催しました。

当日は白ねぎ部会会員の他、集落営農法人、サポート経営体や関係機関から約30名が集まり、関心の高さがうかがえました。

実演には土寄せの最終段階を迎えたほ場を選定し、ねぎ株元への土の上がり具合や管理機の通過による葉の折れ具合の他、管理機の操作性や作業能率などを確認しました。

生産者からは「JAが機械導入と専属のオペレーターによる受託作業を担う仕組みづくり」が要望されるなど、作業受委託推進に繋がるものと期待されました。

今冬には集落営農法人による白ねぎの調製作業の受託を試行することとしており、産地内の労力補完による白ねぎの産地再生の取り組みを支援していきます。



◆ 乗用白ねぎ土寄せ管理機の実演の様子

◆ 意見交換の様子